



～図書室にはこんな本があります～

No. 116

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦時中に「凧」が防空目的で使われていたことがわかる資料が見たい。

答) 「防空」「凧(紙鳶)」をキーワードとして、**ことば**で検索します。

全資料 → **ことば** → **防空 凧** ⇒14件

全資料 → **ことば** → **防空 紙鳶** ⇒2件

『防空大鑑』(391.38/B63) 閉架一般

『相模海軍工廠』(397.21/Sa15) 閉架一般

『学徒勤労働員の記録 戦争の中の少年・少女たち』(210.75/Ka43) 開架一般

『子供の科学 第24巻第8号』(405/Ko21/24-8) 閉架雑誌

「辻堂海軍演習場で防空凧の空襲[※]阻塞の実験を行った。(略)辻堂演習場の周辺に10～20個の防空凧を揚げ、厚木航空隊から発進する飛行機の空襲を阻塞するとの想定で実施した。その結果は、急降下爆撃及び低空での銃撃は心理的に不可能とのことであった。その報告に基づき防空凧は大量に生産されることとなった。

防空凧の製造は、神奈川県及びその周辺の中学校、女学校を動員して製造され、昭和19年500個、昭和20年は2000個にも上った。」(『相模海軍工廠』より引用)

※ 阻塞(ソク)・・・へだてて塞ぐこと

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

覚せい剤、いま・むかし…。

2009年の夏、連日話題になっていた覚せい剤。

戦時中、「ヒロポン」という薬が出回り、その広告が新聞紙面や雑誌に出ていました。

ヒロポンは、大日本製薬の商品名で、成分はメタンフェタミン(フェニルメチルアミノプロパン)という、強い中枢神経興奮作用をもつ化学物質です。脳内の欲求が満たされると快感を覚える神経系に作用して、眠気覚ましや疲労がなくなるかのような感じをもたらすものです。しかし、食欲の低下や血圧上昇などの副作用があり、依存状態になりやすく長期にわたって使用すると幻覚や妄想、意欲低下などの症状を引き起こす薬物です。

この薬の広告が現れた昭和17年8月には、「除倦覚醒剤」と表示され、「疲労の防止と恢復に！」という文句で労働者の疲労回復薬として売り出されました。翌18年の広告には、「頭脳の明瞭化」「作業能の亢進(表記そのまま)」「疲労除去」「睡気一掃」などが加わり、職場での生産性向上をめざした薬の広告が目立つようになりました。

メタンフェタミンは、昭和26年に公布施行された覚せい剤取締法によって、製造、販売、所持などが規制され、一般の広告も禁止されました。薬は今でも生産されていますが、通常では使用されず、法に基づき医師が処方した場合のみ使用できることになっています。

敗戦と同時に、ヒロポンは青少年の間に広がり、社会的な問題になりました。中毒者たちは、手に入れるためにお金を必要とし、犯罪を犯すようになり、昭和24年10月に警視庁が悪質業者らの取り締まりと青少年補導を各署に指令しました。

昭和29年11月9日、戦後3回目の大捜査が行われ、警視庁は警官600人を動員して東京御徒町のマーケット街を捜査し、密造ヒロポンを押収、所持者を検挙しました。

—やってはいけないこと— 社会生活のルールとして深く刻みたいものです。

参考文献

『昭和 二万日の全記録 第8巻』(210.7/Ko19/8)

『昭和 二万日の全記録 第10巻』(210.7/Ko19/10)

『新聞で調べよう現代日本の50年 第1巻』(210.76/B34/1)

『ヒロポン』(368.8/Se19)、『戦う広告』(674/W17)



—図書室から—

爽やかな秋になりました。都心の紅葉はまだまだ先ですが、ぶらりと散策するにはとてもよい気候です。「読書の秋」にちなんで、本を片手にお散歩はいかがですか。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 116

2009年10月22日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1